

伊勢湾貧酸素情報（第 5 報）

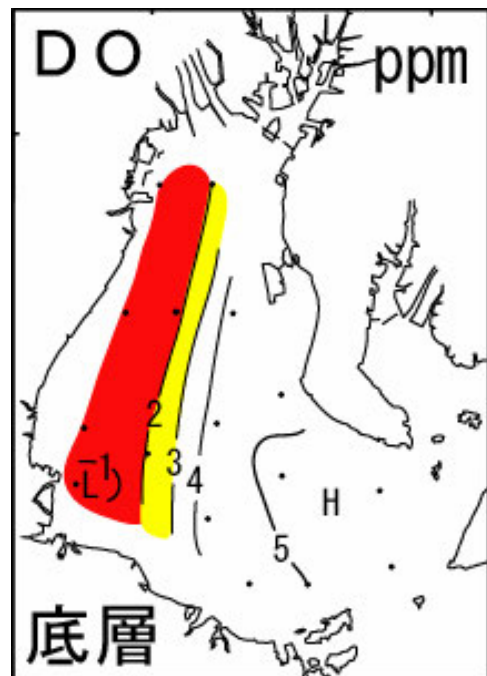
三重県水産研究所 鈴鹿水産研究室

伊勢湾の底層では溶存酸素量が低下していて、三重県北中部の沿岸域で 2 ppm以下の貧酸素水塊が形成されている。

10月7日の調査結果

10月7日の調査船「あさま」の定線観測によると、水温は表層で 21.5～23.5℃、10mで 22.2～23.9℃、底層で 22.6～23.8℃の範囲にあり、表層、10m、底層とも平年並からやや高めとなっていた。塩分は表層では 27.72～31.67、10mでは 28.93～33.58、底層では 30.88～33.96の範囲にあり、表層では平年並から高め、10mと底層では平年並からやや高めとなっていた。DO（溶存酸素量）は表層では 3.9～5.5ppm、10mでは 1.2～5.6ppm、底層では 0.7～5.4ppmの範囲にあり、表層では低め、10mでは平年並からやや低め、底層では平年並からやや高めであるが、三重県北中部の沿岸域では 2 ppm以下となっていて、香良洲地先では 1ppm以下であった。

今回の調査では、水温と塩分は表層から底層まで数値がほとんど変わらないことから、上下混合が起こっていると考えられる。今後、貧酸素水塊は徐々に消滅していくと思われる。



底層貧酸素水塊分布